

沖縄歴史の散歩道

◆沖縄史跡の魅力

琉球史研究家の上里隆史氏が沖縄の歴史文化の魅力の本誌上で連載しています。



糸数グスク (南城市)

4年にわたって連載してきた「沖縄歴史の散歩道」。今回で最終回となります。沖縄の史跡の魅力について、これまで巡ってきた場所のなかで特に個人的に印象が残っているものも含め、振り返っていきましょう。

まずは世界遺産にも登録されているグスク。一般的に「城」と考えられていますが、墓そのものであるタカラグスク、神話の聖地のミントングスク(ともに南城市)など様々な形態があり、一言では表せない複雑な様相を見せています。

もちろん見事な石造技術の城壁も見どころの一つです。座喜味グスク(読谷村)は15世紀当時の日本列島では最も完成された城郭であると言えます。また丘陵を這うように城壁が伸びる糸数グスク(南城市)は沖縄版万里の長城と言えるでしょう。

知られざる史跡といえば石碑群があります。魔除けの「石敢當」が有名ですが、梵字碑もまた各地に点在

渡具知の梵字碑 (読谷村)



泰山石敢當 (豊見城市)



しています。読谷村渡具知の梵字碑や、珍しいものでは梵字と石敢當がセットになった豊見城の泰山石敢當もあります。浦添市経塚の地名の由来になった金剛嶺碑、国頭村奥間の金剛山碑と南無阿弥陀仏碑なども、意外と沖縄で仏教が受容されていたことがわかる事例です。

沖縄のお墓といえば亀甲墓や破風墓が一般的ですが、それ以外のタイプも存在しているのが興味深いところです。宜野座村の漢那ウエヌアタイ遺跡の木製家型墓は14世紀頃のものでおそらく県内で現存する最古の木造建築物です。今帰仁村の百按司墓も同様ですが、木造の家屋の中に遺骨を安置する古琉球時代のスタイルで、史跡としての知名度はないですが、一見の価値はあります。琉球時代だけではなく、近代遺産



漢那ウエヌアタイ遺跡の家型墓 (宜野座村)



百按司墓 (今帰仁村)

も見逃せません。沖縄戦でも残った戦前の建築物も魅力的です。大宜味村役場の旧庁舎は1925年の最古のコンクリート建築で、レトロな景

観を残しています。1919年築の仲尾トンネル(名護市)、1924年築の運天トンネル(今帰仁村)など、古いトンネル巡りもいいかもしれません。このように沖縄にはまだまだ知ら



大宜味村役場 旧庁舎 (大宜味村提供)



運天トンネル (今帰仁村)

れていない歴史の場所が眠っています。ぜひ各地に足を運んでいただき、その魅力にふれてみてください。これまでご愛読ありがとうございます。

上里 隆史 (うへぎと・たかし)

琉球史研究家。内閣府地域活性化伝道師。法政大学沖縄文化研究所研究員。早稲田大学大学院修士課程修了。著書に『琉球という国があった』(福音館書店、2020年)、『海の王国・琉球』(ポニーインク、2018年)、『マンガ沖縄・琉球の歴史』(河出書房新社、2016年)、『尚氏と首里城』(吉川弘文館、2015年)など。NHKドラマ「テンペスト」時代考証や、NHK「プラタモリ」案内人などメディアでも活躍。

